



巻頭
企画

お金をかけずに! 創意工夫で 物流現場を改善

物流改善は経費低減の大きなテーマ。しかし、大がかりなマテハン（効率化機器）を導入したり、情報システムの刷新を図ったりするのでは逆に大きな費用が発生してしまいます。

そこで今回は、創意工夫を凝らし“お金をかけない”で物流現場を「改善していくヒント」と「改善実現の好事例」について、日本大学 生産工学部の鈴木邦成教授に解説してもらいます。

I. 物流現場の改善をつねに意識

物 流・ロジスティクスの効率化は、企業競争力を高めていくために必ず通過しなければならない大きな関門となっています。実際、現代の企業経営における物流・ロジスティクス領域の重要性はたいへん高いものとなっており、いくら商品開発力や営業力が優れていても、物流システムが非効率な企業は、これからの時代は生き残れないといっても過言ではありません。そして現状に甘んじることなく、つねに効率化に向けた現場の改善を積み重ねていく努力とその成果が、より

高度なレベルの物流へとつながっていくのです。

しかし物流の重要性は理解していても、「いかに物流現場の改善を図るか」という具体的な手順や方策については、漠然としか分からないという企業も多いのではないのでしょうか。物流現場の改善を進めていくには、改善前の課題と改善後のイメージがしっかりと頭のなかでできあがっていなければなりません。やみくもに現場の人員を減らしたり、高価な機器を購入したりしても、現場改善の実現は難しいのです。

II. 身近なところから改善を

まずは「見える化」、「7ない」、「3定」を徹底!

物 流現場を“お金をかけない”で改善していくために、まず実践してもらいたいのは「見える化」、「7ない」、「3定」です。それぞれについて説明していきましょう。

「見える化」の推進

物流現場の「見える化」を図ることで、作業効率が大きく向上することも少なくありません。

例えば、倉庫内のさまざまな物品の収納・保管に際して、ラベル表示（のれん表示）の採用や色別管理の実施、また作業内容などが記載された大きく見やすい看板を適所に出すなど、誰もが“見てすぐに分かる”環境をつくることで作業効率の改善を図ります。

「7ない」の追求

「7ない」とは、以下のような「待たせない、歩かせない、持たせない、考えさせない、探させない、聞かせない、書かせない」（順不同）になります。

「7ない」になっている理想的な物流現場とは

- ① **「待たせない」** : あらかじめ段取りを決めておき作業待ちをさせない（待機時間の削減）。
- ② **「歩かせない」** : スリムかつ効率的な動線でムダに歩かせない（最短な移動距離で余計な動きを低減）。
- ③ **「持たせない」** : 必要以上に工具やマテハン機器を持たせない（作業負担の軽減）。
- ④ **「考えさせない」** : “次にどんな作業をすればよいだろう?”と考えさせない（作業への集中）。
- ⑤ **「探させない」** : “どこに何があるのだろうか?”と探させない（作業を阻害する時間の削減）。
- ⑥ **「聞かせない」** : ⑤の疑問を他の作業者に聞くことをさせない（同上）。
- ⑦ **「書かせない」** : 作業中に作業手順や必要事項をメモ書きさせない（手間の削減）。

「3定」の実践

「3定」を行うにはまず、「どこに（定位）」「何を（定品）」「いくつ（定量）」置くかということをしかりと決めます。

例えば、ラックには「品目表示」を行い、そこに置かれている物品の棚板には「棚品目表示」、物品を収めているケースには「モノ品目表示」を、最大量と最小

量、最適量なども併せて明示すると見た目ですぐに判断できます。「どの作業者でもすぐに見て分かり、また元に戻す必要があるならばすぐに戻せる」ということが、物流現場の改善では重要になってくるわけです。「3定」をきちんと実施することで、荷繰りや荷探しが減少し、作業時間の削減にもつながっていきます。

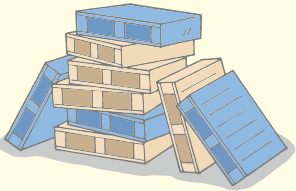
Ⅲ. お金をかけずに実現する具体的な改善策

現 場改善策の成功事例を紹介します。事例①はパレット置き場の改善で作業効率が向上した例、事例②はヒヤリ・ハットの「見える化」で安全運行を改善した例です。改善前の問題点を見ながら、どのようにすれば改善できるのか考えてみましょう。

Before

事例①
〈改善前〉
どのパレットをどの荷主企業が使っているか、すぐに分からなくなってしまう!

〔問題点〕
営業所に平パレットの置き場を設けてありますが、きちんと管理されていませんでした。置き方は煩雑で、どの寸法の平パレットが何枚くらいあるのかも漠然としか分かりません。そのため、数が足りなくて慌てることも少なくありませんでした。また、積み間違いが発生したり、それが誤配送の原因になることもありました。

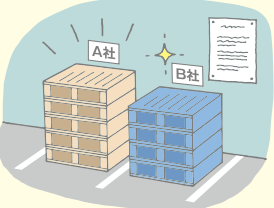


After

〈改善策〉
荷主企業別に平パレットの置き場を整理整頓⇒「3定」の実践

〔取り組み〕
企業名が入っていたり、レンタルパレットだったり、複数の荷主企業パレットのサイズ・形状・所有形態などが異なっていました。そこで荷主企業ごとに整理整頓するといった「3定」を実践。また使用先（荷主企業名）、使用目的、平パレットの寸法、使用数などが見て分かる掲示も行いました。

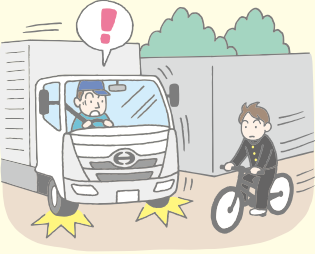
〔効果〕
平パレットの紛失などが減り、枚数管理も荷主企業別管理もしっかりとできるようになりました。また積み込み作業時間などの軽減も図れ、ドライバーの負担軽減につながりました。



Before

事例②
〈改善前〉
ヒヤリ・ハットがなかなか減らない!

〔問題点〕
トラック輸送経路については、TMS（輸送管理システム）などの発達もあり、経路最適化が進んでいます。しかし、ドライバーの感じるヒヤリ・ハットはなかなか減らず、「事故には至らないものの、危ない思いをした」との報告を受けることも少なくありません。交通事故には十分な注意喚起を行っていても、効果的な対策が見つけない状況です。




After

〈改善策〉
事故多发・注意ポイントに赤丸を入れた輸送エリアマップを作成⇒ヒヤリ・ハットの「見える化」の実践

〔取り組み〕
経験豊富な何人ものドライバーから聞き取り調査を行い、「信号が多く追突しやすい」、「道路のアスファルトが削れていて、ハンドルを取られやすい」「対向車が見えにくい」といったヒヤリ・ハットの体験スポットを収集しました。それらをまとめ、輸送エリア内のヒヤリ・ハット発生地域を表示したオリジナルマップを作成。営業所内に大きく貼り出すとともに、各ドライバーにもそのコピーを配布しました。

〔効果〕
安全意識がこれまで以上に高まりました。また、ドライバーからの意見も積極的に寄せられるようになり、マップの完成度はますます向上しました。



物流改善に向けた取り組みをみると、決して目新しく驚くべきものではないかもしれませんが、しかし大切なのは、どのようなことでもまず行動することです。お金をかけず、今できることから取り組んでみてください。

鈴木邦成 (すずきくにり)
物流エコノミスト、日本大学教授(在庫・物流管理などを担当)、一般社団法人日本SCM協会理事、一般社団法人日本ロジスティクスシステム学会理事、日本卸売学会理事、専門は物流およびロジスティクス工学。主な著書に最新刊の「図解 物流センターのしくみと実務 第2版」(日刊工業新聞社)をはじめ、「トコトンやさしい小売・流通の本」、「お金をかけずにすぐできる事例に学ぶ物流現場改善」、「運行管理者(貨物)必修ポケットブック」(いずれも日刊工業新聞社)など。